**＜お願い＞**

**青字は注釈・例示等を示しています。提出時は、青字・吹き出し等は全て削除してください。**

**全体的にフォントをＭＳ Ｐゴシックに統一してください。図のキャプチョン等も同様です。**

（報告様式2-1）

＜課題番号＞

**研究成果展開事業　大学発新産業創出プログラム**

**社会還元加速プログラムSCORE（チーム推進型）**

**完了報告書**

**「研究開発課題名」**

２０ｘｘ年　　月　　日

【研究担当者】

所属：○○大学

氏名：　□□　□□

**１．研究開発課題の名称　等**

|  |  |
| --- | --- |
| 研究開発課題名： | プロジェクトの名称を記載してください。 |
| 研究担当者（所属・役職・氏名） | 例）　○○大学　〇〇研究科　准教授　〇〇　〇〇 |
| 事業化プロデューサー（所属・役職・氏名） |  |
| 委託研究開発費： | ○○大学　　○，○○○，○○○円(注：全研究開発期間の実績合計額（間接経費込み）をご記入下さい。複数契約の場合には各機関ごとに分けて記載してください) |
| 研究開発実施期間： | ２０ｘｘ年 月 日～２０ｘｘ年 月 日(注：契約書に記載の研究開発期間をご記入下さい。) |

**２．SCOREでの活動目的**

　全体計画書の「Ⅱ．研究目的及び内容」を踏まえて３００字程度で簡潔にまとめてください。

**３．SCOREでの活動概要（全研究開発実施期間）**

本プログラムでの活動全体について、目標、実施内容、達成度などを簡潔にまとめてください。

※本項目についてのみ、図表掲載は不可で、文字のみ３００字程度でお願いします。

※機種依存文字の使用は避けてください

**４．活動内容と成果（全研究開発実施期間）**

４－１．　当初のビジネスモデル

顧客の課題、何を事業として提供することにより課題を解決するのか、誰に提供しどのように料金をもらうのかを含め、全体計画書の「Ⅳ．顧客ビジネスモデル仮説の概要」の内容等を踏まえて、３００字程度で簡潔にまとめてください。

４－２．　活動内容　※Demo Day後の活動があればそれも記載願います。

①顧客候補

全体計画書「Ⅴ．活動内容　１．顧客候補」の内容を踏まえ、顧客の属性・その顧客候補を選んだ理由・本技術がどのような点で顧客候補に興味を持たれているのかも含めてまとめてください。

固有名詞が出せない場合には「製薬会社Ａ」などでもさしつかえありません。

②検証活動

※全体計画書「Ⅴ．活動内容　２．検証活動で明らかにしたい仮説と活動内容」の活動項目部分（(1)、（2）・・）を転記したのち、

・実施した活動項目については、仮説の内容・活動内容（ヒアリング内容など）・結果をそれぞれの項目について記載してください。

・実施しなかった活動項目については、実施しなかった理由を記載してください。

※技術検証を行っている場合には、①その検証が必要である理由や検証の目的　②実施内容　③検証結果　④結論を記載してください。②③については、データ・図・写真等、検証のエビデンスを必ず入れて、専門外の方にも理解できるよう記載してください。

※計画書には記載されていないが実施した活動項目があれば、それも記載してください。

４－３．　活動によって明らかになったことの総括

４－２．活動内容　②検証活動　を行い最終的に明らかになった事項を、ビジネスモデル仮説検証と技術検証とに分け、それぞれ箇条書き等でわかりやすくまとめて記載してください。

①ビジネスモデル仮説検証で明らかになったこと

・○○○○・・

②技術検証で明らかになったこと　※技術検証を行っている場合に記載してください。

・○○○○・・

４－４．　事業化のために残された課題・今後必要な作業

※ビジネスモデル仮説検証と技術検証に分け、それぞれ箇条書き等でわかりやすくまとめて記載してください。

①ビジネスモデル仮説検証の課題

・○○○○・・

②技術検証の課題

・○○○○・・

４－５．　最終的なビジネスモデル（成果）

①最終的な顧客の課題とその解決方法としてのプロダクト・サービス

４－２．の活動を行った結果として、最終的に「どんな顧客の」「どのような課題を」「技術シーズの優位性を生かしてどのように」解決することになったのか、具体例を含めて記載してください。

②最終的なビジネスの構造

どのように料金をもらうのか、連携パートナーなど関連する組織を含めて図を記載し、その図の説明を文章で補足してください。

③現時点における競合ビジネスやサービスとの比較

表などにまとめわかりやすく記載し、内容について表の後に説明を追加してください。

（※「競合技術はなく、比較はできない」などではなく、直接比較できない場合でも、顧客にとってのサービスやビジネスとして競合となり得るものと比較し、今回提案するビジネスモデルやサービスが提供する独創性、優位性を明記して説明）

※表にまとめる場合の例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 価格 | 機能性 | 品質 | ユーザビリティ | 新規性 | ターゲット市場・顧客等 |
| 競合A | × | ○ | △ | ○ | △ |  |
| 競合B | ○ | △ | × | × | × |  |
| 本ソリューション・サービス | ○ | ○ | △ | ○ | ○ |  |

４－６　チームアップ・顧客候補を含めたネットワーク

①チームアップ

SCOREのプログラムを通じて事業化に必要な役割（研究開発以外）を担える中核人材をどのように獲得または育成しようとし、結果としてどのようなチームアップができたか、もしくはチームアップのためのプランができたかを記載してください。

②顧客候補を含めたネットワーク

事業化に必要、もしくは具体的につながる人脈・ネットワークを獲得するために行った活動の内容と、その成果を記載してください。

４－７.　Demo Day

当日のピッチ発表に対する質問内容や、skypeチャットルームでのやりとりについて、成果を記載してください。

**５．成果一覧（知的財産権等、予定を含む）**

本プログラムの成果として得た知的財産権等があれば記入してください。SCORE契約期間中に得た成果が対象です。また、報告書の内容を後日、e-Radに転記してください。

※不要欄は適宜削除してください。

|  |
| --- |
| 知的財産権 |
| No. | 特許等の名称※他技術との優位性を明記してください | 出願番号（出願日） | 出願人 | 発明者 |
|  |  |  |  |  |
| 学術論文 |
| No. | タイトル | 雑誌名 | 頁、巻、年など | 著者 |
|  |  |  |  |  |
| 学会発表 |
| No. | タイトル | 学会名 | 日付 | 発表者 |
|  |  |  |  |  |
| 新聞・雑誌記事 |
| No. | 新聞・雑誌名 | 日付・掲載面 |
|  |  |  |
| 受賞等 |
| No. | 賞名 | 機関名 | 日付 | 対象者 |
|  |  |  |  |  |

**６．今後の活動の展開**

６－１．　今後の事業化活動の進め方

下記A～Ｆの□のうち、該当するもの一つにチェックし、その計画をどのように進めていくのかを具体的に記載してください。

Ａ．　START　プロジェクト支援型へ応募する

□Ａ－１　2021年度に応募予定

□Ａ－２　2022年度以降に応募予定

Ｂ．　STARTプロジェクト支援型に応募せず、自力で起業を目指す

□Ｂ－１　起業した、もしくは起業の目途が立っている

□Ｂ－２　起業に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定

Ｃ．　他の支援プログラムへの応募　（具体的なプログラム名と内容をご記入ください）

□Ｃ－１　他の事業化支援プログラムへの応募を目指す

□Ｃ－２　他の事業化以外のプログラムへの応募を目指す

（プログラム名：

内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

Ｄ．　企業等への技術移転や共同研究等により、技術シーズの事業化を進める

□Ｄ－１　技術移転や共同研究が開始もしくは完了している

□Ｄ－２　技術移転や共同研究の開始に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定である

（内容：　　（さしつかえのない範囲で具体的にご記載ください）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□Ｅ．上記Ａ～Ｄの技術シーズの事業化に向けた活動を今後行う予定はない

□Ｆ．上記以外の進め方

（内容：　　（さしつかえのない範囲で具体的にご記載ください）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

６－２．　課題と今後の具体的なアクション

　「４－４．　事業化のために残された課題・今後必要な作業」を踏まえ、「６－１．　今後の事業化・活動の進め方」で選択した項目の内容として、具体的に「何を、いつごろまでに、どのように進めるのか」の計画を記載してください。

**７．プログラムに対する自己評価と総評**

SCOREの活動を通して研究担当者・チームメンバーが得た、「新たな気づきや視点」「事業化に対する意識の変化」、「プログラムでの自らの活動内容や取り組む姿勢」などについての自己評価を記載してください。